

## 令和 2 年度学校法人智香寺学園事業計画

### I. 法人の部

私立学校法が改正され令和 2 年 4 月 1 日より施行されることから学校法人の自律的なガバナンスの改善・強化に努めていきます。

- ・ 中期的な計画の策定について
- ・ 情報公開の充実
- ・ 役員の職務及び責任に関する規定の整備

また、継続して「教育研究充実・学生諸活動等助成資金」による寄附活動を進めていく予定です。

### II. 大学の部

#### 1. 将来計画中長期ビジョン

大学は、昭和 51 年に聖橋工業高等専門学校を前身として開学してから 40 余年という歩みの中、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」をモットーに、単なる実学教育にとどまらず、学生一人ひとりの「こころ」の涵養により一層、力を注いでいきます。また、グローバル化や少子高齢化が著しく進展し、将来の予測が困難になっている現代において、大学には、地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における急激な変化に向き合い、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが求められています。そこで本学では、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、将来計画中長期ビジョン検討会を設置し、2016 年から 2020 年までの間でビジョンの実現に向けた進捗状況を判断するため、次の目標を設定し今年度が最終年度となります。

- (1) 入学定員の確保 100%+α
- (2) 離籍率（1 年間）3%以下
- (3) 就職率 95%以上

これらの目標を達成するための戦略として、

- I. 入学戦略
- II. 教育改革・学生支援戦略
- III. キャリア・就職支援戦略
- IV. 地域連携戦略
- V. 研究活動活性化戦略
- VI. 管理運営体制

の強化戦略の 6 項目を掲げ、その具体的な取組みを実施していきます。

#### 2. 自己点検評価

2013 年度に受審した大学基準協会の認証評価が 2020 年 3 月 31 日で 7 年の認証期間を終了することから、継続審査として 2019 年 10 月に実施した実地調査の結果をもって、2020 年度から新たな認証期間が設定される予定です。

認証期間等の詳細等は、本学ホームページにて広く一般に周知いたします。

### 3. 学部教育

- ・質の高い大学教育推進プログラムへの取組
- ・学生プロジェクトを始めとした学生支援のより強化
- ・退学者対策の強化

### 4. 学生募集計画

令和2年度生の学生募集は現在進行中であり結果は出ていないが、令和3年度生の学生募集を実施するにあたり、2018年問題に突入した厳しい環境の中で如何に特色をだし、受験生にアピール出来るかを考え、全学一丸となって学生確保に邁進したい。

#### (A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
<b>(博士前期課程)</b>		<b>(修士課程)</b>	
機械工学専攻	6名	情報社会専攻	15名
情報システム専攻	7名	心理学専攻	10名
生命環境化学専攻	7名		
<b>小計</b>	<b>20名</b>	<b>人間社会研究科合計</b>	<b>25名</b>
<b>(博士後期課程)</b>			
機械工学専攻	2名		
情報システム専攻	2名		
生命環境化学専攻	2名		
<b>小計</b>	<b>6名</b>		
<b>工学研究科合計</b>	<b>26名</b>		

#### (B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	
(機械工学専攻)	80名	(経営システム専攻)	50名
(ロボット・スマート機械専攻)	40名	(メディア文化専攻)	40名
<b>計</b>	<b>120名</b>	<b>計</b>	<b>90名</b>
生命環境化学科		心理学科	
(バイオ・環境科学専攻)	54名	(ビジネス心理専攻)	20名
(応用化学専攻)	36名	(臨床心理専攻)	30名
<b>計</b>	<b>90名</b>	<b>計</b>	<b>50名</b>
情報システム学科		<b>人間社会学部合計</b>	<b>140名</b>
(IT専攻)	70名		
(AI専攻)	40名		
(電気電子情報専攻)	40名		
<b>計</b>	<b>150名</b>		
<b>工学部合計</b>	<b>360名</b>		

## 5. 高等教育の修学支援新制度

2020年（令和2年）4月より開始される高等教育の修学支援新制度は、修学意欲がありながらも、経済的な理由により進学が困難な学生の経済的負担の軽減を目的とした、国による新しい支援制度です。高等教育の修学支援新制度では、「大学等における修学の支援に関する法律」に基づき、一定の要件を満たすことの確認を受けた大学等を対象機関とすることとされています。

この度、文部科学省による確認の結果が公表され、本学は支援措置の対象となる機関に認定されましたので4月より手続きを実施いたします。

## 6. 研究計画

### ①平成31年度（令和元年度）科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※平成31年度（令和元年度）科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	令和元年度 直接経費	令和元年度 間接経費
研究成果展開事業 （B）ひらめき☆と きめきサイエンス	新規	機械工学科	石原 敦	500,000 円	0 円
基盤研究（C）	新規	機械工学科	長谷 亜蘭	1,700,000 円	510,000 円
基盤研究（C）	新規	機械工学科	小坂 丈敏	2,100,000 円	630,000 円
基盤研究（C）	新規	生命環境化学科	有谷 博文	2,100,000 円	630,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	丹羽 修	3,400,000 円	1,020,000 円
基盤研究（B）	継続	先端科学研究所	内田 正哉	7,000,000 円	2,100,000 円
基盤研究（C）	継続	生命環境化学科	長谷部 靖	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	曹 建庭	1,100,000 円	330,000 円
基盤研究（C）	継続	情報システム学科	大山 航	1,777,367 円	445,472 円
基盤研究（C）	継続	情報社会学科	佐藤 由美	500,000 円	150,000 円
計			10 件	21,177,367 円	6,115,472 円

## 7. 産業技術展示会への令和2年度研究展示計画

- ①イノベーションジャパン 2020 出展（8月頃）
- ②諏訪圏工業メッセ出展 2020（10月頃）
- ③埼玉県 第2回 産学連携技術シーズ発表会（10月頃）
- ④埼玉県彩の国ビジネスアリーナ出展（1月頃）
- ⑤埼玉北部地域交流会 併設展示会出展（2月頃）
- ⑥埼玉県 第3回 産学連携技術シーズ発表会（3月頃）

## 8. 令和2年度実績と地域交流計画

- ①「市民のための公開講座（8講座）及び心理学セミナー（5回）」を開催（実績）
- ②令和2年度先端科学研究所協力会講演会及び施設見学会を予定  
講演会 3回（6月、月、12月）  
施設見学会（12月頃）

- ③「科学と仏教思想研究センター」研究セミナー及び公開セミナーを開催  
 令和2年度も開催予定  
 令和1年度（実績）：  
 5月31日（金）第1回  
 7月26日（金）第2回  
 9月27日（金）第3回  
 11月30日（土）公開セミナー（チベット浄土教の瞑想）  
 2月28日（金）第4回予定
- ④子ども大学ふかやの開催(埼玉県教育委員会との協賛事業)  
 (子ども大学ふかや学長：内山俊一 学長／実行委員長：教育研究協力課 笠原貴弘)  
 令和1年度（実績）：深谷市内の小学校4年生～6年生、48名参加  
 : 本学会場他5日間開催  
 令和2年度も例年通り開催予定
- ⑤正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。  
 (協定校：令和2年2月現在 合計38校)  
 [内訳] 高校36校・専門学校1校・日本語学校1校  
 ・協定校との体験授業等実施(16校)  
 ・インターンシップ事業(協定校の生徒受入れ4校) 令和1年度実績
- ⑥深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。  
 ・ふかや市民大学(生涯学習)へ委員及び講師の派遣  
 ・深谷市社会教育委員会委員の派遣  
 ・メンタルヘルス相談業務委託(臨床心理センター)の継続  
 ・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講(臨床心理センター)  
 ・日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催  
 ・深谷市と共催で「深谷ものづくり博覧会」の開催  
 ・岡部中学コンピュータ教室
- ⑦長野県坂城町(坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校)との連携を推進する。  
 ・埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ理科実験」  
 ・「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣  
 ・「さかきふれあい大学」埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」  
 ・坂城高校文化祭(葛尾祭)へ研究展示  
 ・坂城高校大学見学  
 ・坂城町との連携協定に基づく連携会議  
 ・坂城高校を発展させる会
- ⑧日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」を実施  
 令和2年度も申請予定  
 令和1年度（実績）：令和1年10月7日（月）～10月13日（金）7日間  
 参加者：中国の各大学より若手研究者10名  
 交流計画テーマ：「次世代先端材料、人工知能(AI)と情報ネットワーク(IoT)技術開発に関する研究」

## 9. 就職計画

### (地域交流)

- ①坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業
  - ・坂城町企業見学会（9月に2日間実施予定）
  - ・坂城町企業の企業研究セミナー参加（2月開催予定）
  - ・大学と坂城町企業との意見交換会及び企業見学会（10月開催予定）
- ②各都道府県との「Uターン就職促進に関する協定」における事業（群馬県／栃木県／長野県）
  - ・県内企業との情報交換会参加（10月以降開催予定）
- ③諏訪工業メッセ関連事業
  - ・諏訪工業メッセにおける地元企業との情報交換会（10月予定）

### (学生支援講座・ガイダンス)

- ①公務員対策講座（8月～9月、2月開催予定）
- ②学年別就職ガイダンス（4月～2月複数回実施予定）
- ③インターンシップガイダンス・インターンシップマナー講座（5月開催予定）
- ④埼玉県大学就職問題協議会主催：17大学合同企業説明会（8月開催予定）
- ⑤就活マナー・面接実技研修（12月～ 複数回開催予定／合宿形式、一日研修）
- ⑥スーツ着こなし講座（10月予定）
- ⑦SAIKOドリル（6月～SPI／CAB・GAB／クレペリン／webテスト／玉手箱 他）
- ⑧筆記試験集中対策講座（SPI／1月実施予定）

### (学内合同企業説明会等)

- ①4年生向け合同企業説明会（4月・9月開催予定）
- ②3年生向け業界研究セミナー（12月開催予定）
- ③3年生向け企業研究セミナー（2月開催予定）
- ④3年生向け合同企業説明会（3月開催予定）
- ⑤ミニ合同説明会（4月～2月複数回実施予定）
- ⑥個別会社説明会（4月～2月複数回実施予定）

### (保護者向け就職ガイダンス)

- ①3年生 保護者向け就職ガイダンス（5月1回開催予定）

### (学生支援事業)

- ①キャリアカウンセラーによる相談（4月～3月）
- ②工学部学生対象工場見学会（埼玉・群馬 各県2社見学予定）

### (情報交換会及び加盟団体)

- ①県及び情報サービス産業協会主催の就職情報交換会参加
- ②埼玉県大学就職問題協議会
- ③関東地区大学理工系就職研究会

### Ⅲ. 高校の部

正智深谷高校イノベーション計画（SHIP）を旗印に掲げ、それらに基づく学校運営を始めて3年。令和2年度は、3学年全てが新系統・コースで揃う最初の年度となります。これまで、iPadの導入や土曜講座、G-CATプログラムなど様々な新しい教育への取組みを進めてきました。G-CATプログラムとして実施した探求型修学旅行のように、一定の成果を出しつつある取組みもあれば、iPadの活用のように、有効活用の可能性は認めつつも、まだまだ試行錯誤を繰り返している取組みもあります。3学年全てが揃う今年度を新たな契機として、実践をさらに一歩進め、学校全体としての取組みに広げていきたいと考えています。

日本全体を見渡すと、教育環境や社会情勢の変化は著しいものがあります。今年度に迫った大学入試改革の目玉であった「英語外部試験の採用」と「数学・国語の記述試験導入」については見送られてしまいましたが、入試の出題傾向が少しずつ変化してきていることは各先生方が実感されています。入学定員遵守の厳格化の影響により、都心の人気大学をはじめとする多くの大学で一般入試が難化しています。また、15才人口の減少は止まることなく、埼玉県内の中学3年生生徒数においては、令和3年が近年での底になるとのデータも示されています。

さらに、昨年、中国武漢市を発生源とした新型コロナウイルスの猛威は止まるところを知らず、感染拡大の影響は新年度に入ってからもしばらくは続くことが心配されます。その結果、景気の動向に大きな影響を与えることになり、中学生の進路選択にも少なからぬ影響が出てくることでしょう。私立高校にとっては、生徒募集を含めて、極めて厳しい1年になることが今から予想されます。

こうした厳しい状況の中で、他校との差別化を図り、安定的に生徒募集を行なうこととはもちろん、進路実績を着実に積み上げていくためには、教職員一同が一致団結して、覚悟を持って学校運営に当たっていく以外にありません。教員個々人の能力や実践だけでは対応しきれない多様化した現代社会だからこそ、教員同士の結束が不可欠です。今この厳しい時だからこそ、教員同士がお互いを尊敬、尊重し、利他精神を持って、新しい教育活動に取り組んでいきたいと思えます。

#### ■教育目標

仏教精神に基づき、真理を追究し、和を尊び、  
平和を重んずる規律正しい人間、智慧を求める人間を育成する

#### ■校訓

せんちやく      せんじゆ  
選択              専修

#### ■育てたい人間像【3つのミッション】

- ①自己肯定感を育み、他者を認めることができる人。
- ②問題解決に協働して取組み、他者に貢献できる人。
- ③ビジョン(夢)を持ち、そのための努力を継続できる人。

#### ■募集定員

系統	コース	募集定員	目安偏差値
特別進学系	Sコース	30名	65
	Hコース	90名	60
総合進学系	Iコース	120名	55
	Pコース	120名	50

## 《具体的な計画ならびにプログラム》

### ■G-CAT プログラム

「G-CAT プログラム」は「Global Career Academic Tour」の頭文字をとって名付けた「3 年次完結型のキャリア教育・グローバル教育プログラムである。国連が定める SDGs「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」と連動させ、国内外の様々な国、地域の企業、NPO 団体、教育機関と協力しながら様々なプログラムに取り組む。単なる教育活動ではなく、未来につながる社会貢献活動の一環として、様々な内容がプログラムに組み込まれ。学年進行で①新入生キックオフキャンプ、②企業訪問プログラム、③グローバルビジョンセミナー、④キャリア講演会などを経て、2 年生の 2 月に実施する「探求型修学旅行」が最大のメインとなる。3 年次には、修学旅行の振り返りを中心に、プレゼンテーションを通じて探求学習の集大成とする。また、ロジカルシンキング講座なども予定している。G-CAT プログラムを通じて、早期に自身のキャリアビジョンを確立し、自ら選択、判断できる力を身につけることを最大の目標としている。

#### ①新入生キックオフキャンプ (1 年)

高校から大学での学校生活、社会に出てからの仕事など、自らの人生そのものに対して「主体的に」取り組む考え方や方法を学ぶ。グローバルビジョンセミナーの他に、ICT 研修、宗教研修、チームビルディング、ホームルーム行事などを実施し、3 年間の高校生活を円滑に進めるための土台作りを行なう。

また、国連の全ての加盟国が同意し、2030 年までの実現を目指す SDGs (持続可能な達成目標) について、基礎から学ぶ機会もあり、今後の全ての教育活動の拠り所となる SDGs について学ぶことができる。

#### ②グローバルビジョンセミナー (1・2・3 年)

生徒一人一人の将来ビジョンを明確化させるとともに、目標への取り組みをサポートし、ゴールまでしっかりとフォローしていくプログラムです。入学直後 KOC から始まり、そこで描いたビジョンに主体的に取り組めたか否かを定期的に確認しながら、3 年かけて行われるその他のプログラムと連動しながら、相乗効果を図っていく。

#### ③東京都内企業訪問プログラム (1 年)

実際の企業の現場や仕事を見ることで、将来ビジョンの具体化や職業観の形成に役立つプログラム。13 種類のビジネス分野から興味のある領域を選択し、6~8 名のグループで該当する企業を訪問する。訪問先は 1 年次の 6 月に決定し、11 月の訪問までに企業研究や業界研究を行う。訪問前には社会人としてのマナーや挨拶についての特別講座も実施する。この経験が探求型修学旅行におけるプレゼンテーションや交流プログラムの際に効果を上げることを期待している。

#### ④キャリア講演会 (1 年・2 年・3 年)

生い立ちや業種の異なる社会人パネリストを複数名招き、実際の仕事内容や高校生の年代にやっておけばよかったこと、グローバル社会において身につけておくべき事項などについての話を聞く。アクティブラーニングの手法を用い、一方的な講演会ではなく、双方向型授業のスタイルで実施する。

#### ⑤SDGs セミナー (1・2・3 年)

SDGs は 2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟の 193 か国が 2030 年までに達成するために掲げた開発目標。目標は 17 の項目と 169 のターゲットに分かれていて、SDGs セミナーでは SDGs に関する基本的な事項の理解から始め、具体的な行動に移すことを目標とする。

## ⑥探求型修学旅行（2年）

生徒のキャリア形成とグローバルマインドの醸成を視野に入れた新たな修学旅行の形態で、G-CATの一番の核となるプログラム。様々なテーマから選択できる6つのコースを設定し、各自の興味関心に基づいて研修先を選択できる。事前指導は入学直後から始まり、訪問地に関する学習とSDGsとの関連を探しながら進んでいく。

研修先の決定後は、事前に設定したミッションに基づき、現地では最先端企業、国際機関、公共施設、小学校や大学などの教育機関を訪れ、多様な価値観を持つ人々と交流しながら知識を深めていく。旅行後には現地での体験や得られた成果を下級生に対してプレゼンし、学習の仕上げとする。教室では得られない体験を通じて、将来ビジョンの確率や進路選択へつなげていくことを目標とする。

### 【6つのコースと課題テーマ】

- ①石垣島 → 日本の最先端技術に触れる。  
海に囲まれた日本特有の環境・国際問題について考える。
- ②ニューヨーク → 世界の政治・経済・文化の中心でグローバルセンスを磨く。
- ③シリコンバレー → 最先端ICTの現場に触れるとともに起業家精神を養う。
- ④シンガポール → アジアを牽引する多民族国家にてダイバーシティを体感する。
- ⑤インド → 著しい経済成長・人口増加の陰にある諸問題の探求。
- ⑥カンボジア → 後進国における雇用創出や教育問題について考える。

### ■タブレット端末（iPad）の有効活動

令和2年度の入学生をもって、全生徒がタブレット端末（iPad）を持つこととなる。各教科での有効活用に向けて、現在も試行錯誤が続いている。教科の特性によっては、極めて有効な教具となっている教科もある反面、教科によっては必要性をあまり感じずに、持て余してしまうケースも生じている。また、使用マナーについては、今なお指導が中途半端になってしまっている現状がある。生徒端末管理用アプリ「classroom」の使用方法を周知徹底することで対応できる部分が多々あるため、今後は活用していきたい。

また、様々な場面でkeynoteを使ったプレゼンテーションの機会があり、生徒の習熟度は学年が上がるごとに高まっている。教員が目を見張るようなスライドを作る生徒もいて、デジタルネイティブ世代である現在の高校生の適応力には驚くばかりである。今後は、ビジュアルだけでなく、プレゼンテーションの内容や仕草や身振り、手振りにまで踏み込んで指導していきたい。iPadの具体的な使用方法としては、以下の通りである。

- ①情報検索ツール → 調べ学習などでの情報検索。プレゼンテーションの事前準備など。
- ②情報共有ツール → 資料やデータ、映像などの共有。確認事項や連絡事項などの共有など。
- ③成績管理ツール → 模擬試験データの共有。学習時間などの管理など。
- ④コミュニケーションツール → 宿題や課題などの配布、回収。ロイロノートの活用など。

### ■土曜講座

平日（月曜日から金曜日）は通常のカリキュラムに基づいた授業を行い、土曜日については通常の授業を多面的な視野に基づいたプログラムによる授業を実施する。それにより様々な進路希望の生徒のキャリアプランを構築する一助としたい。

#### <土曜講座プログラム例>

オンライン英会話	プログラミング演習	小論文講座	歴史探求（世界史）
スポーツ演習	体験型教養講座	Englishセミナー	



## ■地域連携

- ①深谷ロータリークラブと連携し、青少年育成のために年間2回、深谷駅前花壇の植栽事業を実施。乗降する地元の皆さんの目を和ませている。また、文化祭にも参加してもらい
- ②本校から至近距離にある桜ヶ丘小学校と「さくらっこサポーターズ」協定を締結。スポーツ指導や芸術鑑賞会への協力を通じて、地域の子どもたちとの交流を深める。
- ③ボランティア活動の一環として、深谷市内のNPO団体が運営する「こども食堂」の手伝いを不定期で実施。食事の準備や配膳を通して、子どもたちとの交流を深める。

## ■宗教研修

- ①学校全体の宗教行事として、年間3回学校行事を実施する。  
精霊会（7月）、法然忌（10月）、成道会（12月）とそれぞれの法要の意味を理解することを通して、利他精神について学び、「共生」の意味を知ると共に建学の精神の理解を深める機会とする。
- ②3年間の宗教教育の集大成として、高校3年次に大本山増上寺での宗教研修を実施。法話を通じて心の豊かさについて学び、勤行を通じて3年間を振り返る機会とする。

## ■トップアスリートクラブ特別講座

- ①本校と「スポーツ振興および健康増進に関する連携協定」を締結している大塚製薬により、「熱中症対策とコンディショニングづくり」に関する特別講座を実施。水分補給や体調管理についての知識を深め、真のアスリートとなるための心構えについて学ぶ。

## ■特別講演会

- ①成道会（12月）の法要終了後、情操教育の一環として、多感な高校生に訴えかけるお話をしてくれる方を講師にお迎えし、講演会を実施。  
過去の講師：吉岡秀人氏/NPO 法人ジャパンハート代表。ミャンマーで医療支援活動に尽力されている。
- ②人権教育の一環として3月に講演会を実施。浄土宗明照会からの協力を得て講演会を実施。  
過去の講師：カール・ベッカー氏/アメリカの宗教学者。京都大学特認教授。  
中川こうじ氏/戦場カメラマン。国内外の野良猫の写真を通して反戦について学ぶ。

## ■今後のスクールバスについて

現在、本校ではスクールバス（6コース）を無料で運行しているが、その経費は莫大な金額となっている。スクールバス利用生徒数は、毎年全校生徒の30%前後であるため、高崎線を利用している生徒との公平性の観点から、2021年度からの有料化を今年の理事会で提案しました。しかしながら、有料化による入学者数の減少を高崎線利用者で賄うことが極めて難しいことが試算できたため、2023年度までの無料運行の継続を決定した。ただし、利用者数が少なく効率の悪い2コースについては廃止することとし、全体で4コースを無料運行することとしたい。2023年までは入学生徒数の変動を見ながら、今後の運行について再度検討したい。

- ①秩父コースと児玉コースを廃止する。  
ただし、バス委託会社との契約範囲内で、生徒募集面においてより効果的な運行コースを検討する。
- ②2023年度入学生徒数の状況を見て、今後のスクールバス運行について、再度検討する。
  - (a) 4コースでの無料運行を継続する。
  - (b) 無料運行を継続しつつも、利用者の少ない路線を廃止し、コースを縮小する。
  - (c) 主要な寄居コースのみを残し、他コースは廃止する。